

飯 豊 主 稜 縦 走 記 録



目的地	梶川尾根～北股岳～大日岳～本山～大嵐尾根	期 日	平成 16 年 9 月 23 日(土)～25 日(月)
山人	笠原正雄・澄子・花澤信一・裕子	特 記	初めての山中 2 泊の本格縦走

地 点 名	(着) ～ (発)	天候	記 事
第 1 日 目 (2 3 日)			
与 板	午前 4:00 発	雨	花澤運転の車で出発。三条 IC～中条 IC 高速割引き区間に行く。ドシャ降り、新発田あたりより雨弱まる。
天 狗 平 P 着	6:20	〃	車中で朝食。雨の中を郡山の山岳会 7 人パーティーが一行隊を成して歩き出して行く。天候好転の予報を信じて、飯豊山荘の休憩舎で支度する。
天 狗 平 P 発	7:50	小雨	予定より 20 分遅れで出発。登り口手前の橋が木の板からコンクリート橋に変わっていた。すぐ急登から始まる。花澤雨具・笠原傘歩行。
	8:50～9:00	曇	休憩。雨具はずす。
湯 沢 峰	9:47～10:10	〃	急登の連続から小ピークへ。標柱 1 本のみ。
	10:45～10:50	〃	休憩。誰とも逢わず山は空いている。
滝 見 場	10:58	〃	本道を左にはずれて展望小広場。ガスで全く見えない。この後少し登りが緩やかになるが、すぐ急登始まる。
五 郎 清 水	11:50～12:15	〃	小広場。郡山隊がいた。ここで昼食を摂ったらしい。女性 CL から「国体競技は 30kg 荷重でここまで 1 時間」と聞いて仰天。小屋情報等を得る。隊は先行して行った。水場は右へロープ付きの急降下 1 分程。水補給。
	12:33～12:40	〃	休憩。薄日が差す気配あり。
	1:00～1:10	〃	休憩。ガスの中。
梶 川 峰	1:32～2:12	曇 晴	昼食。ハイマツの中の広場。雲の切れ間にクサイグラ尾根、ホン石転ビ沢らしき所が下部の雪渓まで見え隠れする。信一に中町軽井沢旅行中の田中氏から TEL、景色の様子を話す。この後尾根筋の小アップダウン。
扇 ノ 地 神	3:04～3:14	曇	尾根下の巻き道の大広場。標柱は「地神」、尾根上の標柱は「地紙」。尾根越しの新潟県側の斜面はハイマツの中のもみじやナナカマドの紅葉がきれいだ。晴ならばもっと美しいだろうが、それでも満足。尾根道を左へ進み、途中胎内山を通過する。
門 内 小 屋	3:40	〃	無人だった。鐘を鳴らして入室。小屋脇に出て見事な雲海を眺める。向こうに北股・本山等を望むことが出来る。信一「アリガタヤ」「ナンマンダブ」と発している。裕子コンクリートドームの閉鎖中トイレの上上がり雲海に向かって両手広げ「タイタニック」。小屋に戻ると 40 歳程の単独男が入って来た。飯豊は十数回と聞く。全く同一コースのトレールとなるが、我々が先に発ち、途中で彼に追い越される 3 日間となる。その後もう 1 人単独男が小屋をのぞき、我々の人数をつぶやいて地神方向へ進んで行った。計 5 人で小屋利用。正雄は今夜の五目おこわを持って

			来なかったと澄子に叱られている。(帰宅してから分るのだが、実はこれは澄子のボケであったのだ。) 代りに予備食の餅を焼いて食べる。
	6:00 頃		就寝。腕時計温度 25°C前後で暖かい夜である。
	8:50		裕子のドア音で全員が覚め外に出てみる。上空の雲上の月で今からでも歩き出したくなるような明るさだ。小屋脇の門内岳の頂に上がってみる。沢筋の雲が二王子岳の中腹まで下がっている。新発田の夜景がきれい。
	10:00		再びドアを開けて外を見たが、今度はガスで視界無し。
第2日目 (24日)			
	3:50		起床。御西小屋迄との当初の予定距離を伸ばして本山小屋をめざす。
門内小屋	5:40	曇	薄明るくなってガスの中歩行開始。尾根道。暫らくして左下にギルダ池。
	6:30~6:35	〃	登り返しで休憩。右に小さな遭難碑、新大ワングル昭和 63 享年 26 歳。
北俣岳	6:45~6:50	〃	ガスで展望無し。
梅花皮小屋	7:15~7:45	〃	小屋脇広場で十数名団体が管理人を加えて出発前記念撮影中。広場右手すぐに治二清水、太いホースで勢い良い。補給。小屋で郡山隊が丸森尾根下山の出発準備中。女性 CL と会話する。他メンバーから玄山道分岐弘法清水の情報ももらう。福島訛りが嬉しい。小屋はキレイで広く靴を脱いでの2階建。トイレは3戸口水洗。もしここまで足を伸ばしていたら管理人が入っていたので1人 1,500 円が必要だった。無銭上山でヤバかったのだ。すぐ足元に石転びの上山路。少し食べて出発。
梅花皮岳	8:08~8:20	曇 晴	薄日差し大日岳が姿を現す。
烏帽子岳	8:45~8:50	〃	
	9:25~9:30	〃	道々で信一花先生に教えて貰うもその時は頷くがじきに忘れてしまう。
御手洗の池	9:25~9:30	〃	道の脇の池。休憩。隣の小広場に標柱。
天狗の庭	10:21~10:35	〃	暖かくなって来て、重ね着の一枚を脱ぐ。背後から同宿の単独氏が追いついて来たところで出発。笹道が荒れて来ていて、迂回路を進む。この道は竹を切り倒した道で歩きにくい。ガスがかかっていたりしているが、大日岳がだんだん大きくなる。途中年配単独者とすれ違う、一声交わす。
御西小屋手前		曇	直進の踏み跡を行くも、途切れる。左折のガレ場を降りる。この迷いを追いつかれた単独氏と共に確認する。そして追越された。
御西小屋	11:25~12:10	〃	やや急登の後、ガスの中に見えて到着。上がり込み昼食。単独氏は間もなく食べ終わり大日岳へ向かって行く。他に2階に2~3人いた。
大日岳	1:23~1:35	〃	小屋に荷物デポジット。ストックを持ち忘れたため取りに戻る。花澤2人先に行く。頂上手前で単独氏下って来る。頂上でようやく4人揃う。小屋を出た直後追越して行った大日杉入山の東京からの若者2人がいたのみ。小屋から下って登降の後最後のひと上りで頂上・道中・頂も曇で遠望利かず。頂上での記念写真を撮り忘れてしまった。
御西小屋	2:35~2:55	雨	小屋に着くや雨となり雨具歩行とする。一時強く降るが歩き出す頃には小雨になり、まもなく降り止み道中で雨具脱ぐ。
玄山道分岐	3:40~4:00	曇	右の踏み跡 100m 程で涌水の弘法清水。補給。下方に雪田が見える。この後所々ケルンのあるガレ広場の中の道を進む。序々にガスがかかって来る。御西小屋以後人気はまったく無い。
飯豊本山	4:40	ガス	3~4回ニセ本山を登っては降りてようやく到着。この登り返しが結構難儀だ。記念撮影。標柱とコンクリートの小さい祠の屋根があるのみ。
本山小屋	4:58	ガス	ガスの中。自家発電の電気が点いていてトイレ等工事中。周囲に工事材が積まれていた。2階出入り口のハシゴ取り付け作業中で入口に足場があり、作業の切れ間を待つ入室。1階は作業部材でうまっている。2階に上がり陣取る。今夜も先に入室した単独氏と5人のみ。作業が終わり電気消える。1階もきれいに片付いていた。ここで単独氏から弘法清水の名を教えてもらう。(地図には水場そのものも記されていない)
	7:25		就寝。外はガス、それでも月明かり。今夜も暖かい。
第3日目 (25日)			
本山小屋	5:55 発	曇	小屋前で記念撮影。本山に戻り、標柱に従い大崑尾根をめざす。風やや強し。宝珠山の三角錐が鋭い。岩混じりの下降道にペンキマークがあり、わかり易い。ウラシマツツジの紅葉とハイマツの緑がきれい。天は抜けていないが、左手のスキーゲレンデ風斜面の草紅葉が美しい。クサイグラ尾根・梶川尾根が良く見える。
宝珠山手前鞍部	6:50~7:10	曇 晴	岩の道から灌木の歩きにくい道の下降を経て休憩。
宝珠山	7:50~8:00	晴 曇	2峰あってどっちが頂かわからぬが、1峰目で休憩。
	8:32~8:40	〃	降りては登り返し、景色の良い所で休憩。

	9:25~9:37	〃	1499 峰の左の巻き道の樹林帯で根に腰をおろす。
千本峰手前	10:15~10:30	〃	地図では鎖場だが鎖がはずされていた。7m ザイルを使う。急登後休憩。
休場の峰	11:05~11:20	〃	ここも2峰あって、1峰目で景色を楽しみながら休憩。やり過ぎすと「休場の峰」の標柱あり。単独氏がこの辺で追越して行く。
	11:33~11:42	〃	樹林の切れ目からの最後の展望。雲海が牛乳風呂のようだと裕子が言う。北俣・門内の山容を楽しむ。その右手方面の山々も見える。
	12:20~12:35	ガス	雲の中に入り、ガスで木々が濡れている。一応昼食として行動食を多めに食べる。ザックカバーを着ける。
長坂清水の看板	12:48	曇 晴	右手へ急降下の道。行かず。この手前、軽装の中年男が上山して来た。ここまで休み休み4時間かかったと言う。更に急降下が続く。
	1:25~1:30	曇	休憩。急降下の連続で皆疲れた様子ありあり。
	1:38	〃	木々の間から下方に梅花皮沢と思われる砂防ダムが見えた。終りも近いと感じる。黒松だろうか、昨秋の針葉樹落葉の緩やかな下り道が少し続きホッとす。
吊橋	2:25~2:40	〃	太いワイヤーと鉄板の立派な橋。念のため一人ずつ渡すよう指示を出す。渡り切って川原で休む。沢水を飲む。記念に形の良い石を拾う。行き交ってから少し先まで進んだ中年男が戻って来た。このことから我々のペースがかなりダウンしていたことが分る。
天狗平 P	3:25 着	〃	吊橋から沢の巻き道に上がると、岩場を肥えたサルが数匹声を発しながらかけ上って行く。作業道を経て温身平、林道を通って昨々日入山の登山口。標柱を撮影してから車に戻る。少し車で進んで梅花皮荘で入浴、帰路につく。途中は晴れ間で風がやや強い。頂は雲だが飯豊連峰の山容が見えた。西の入り陽がきれいで一昨日だったらと少し恨めしく思う。
与板着	7:00		「みよしの」へ、4人でハンパキ。無事踏破の安堵感から少々ハイテンションとなり飲み過ぎの様態となる。

5年前の体育の日に小白布沢から本山を1泊でピストンした。その時の報告に「またいつか、今度は北股岳への主稜線を行ってみたい。」と記した。更にその後、晩秋に梅花皮沢砂防ダムまでのアプローチを確認しに出掛けた。そして、その望みがかなって嬉しい限りである。

先月4日に巻機ヌクビ沢を上がった。そして石転ビ沢に注目しながら、このコース調べ始めた。当初妻と2人での計画を進めていたところ、屋台の囃子練習で花澤氏から石転ビ沢のVTRテープを借りたいと話したことから、夫妻と同行することとなった。ネットで情報を見て行くうち、週毎に石転ビ沢の雪渓の状況が悪化して行くことと、それを通過する経験も自信もないのでこのコースとした。

天気予報をにらみながら、当初予定していた日程を2日スライドしての入山である。連休の谷間と月曜をからめたせいか、入山者は少なく、更に小屋を選んだため、2晩とも計5人でゆっくりと過ごせて、幸運であった。

初めの計画では、2晩目は御西小屋泊としていたが、皆がガンバって本山小屋泊とすることが出来た。その結果3日目の行程をゆとりあるものにすることが出来て良かった。

快晴とはならなかったが、雨の時間はごく僅かであって、歩行にはちょうど良い天候であった。全体を通して結構ハードなコースだ。特に3日目は強いアップダウンと長丁場で重労働だ。それでも山の上部は紅葉が見事で、峰々の景観と花澤夫妻が同道してくれたことで楽しい山行となった。感謝である。

3日間の本格縦走を達成し、多少なりとも自信となった。

【食事の記録】 1日目 朝…サンドイッチ・おにぎり・梨・お茶
 昼…のり巻き寿司・コーヒー&ココア
 夕…カップ細麺うどん・焼き餅いそべ巻き・缶詰・漬物・つまみ
 2日目 朝…チーズパン・クロワッサン・ポタージュスープ・はちみつ
 昼…インスタント塩ラーメン・三角帽クロワッサン
 夕…α白飯(2食袋)・レトルトカレー・缶詰・つまみ
 3日目 朝…チーズパン・コーヒー&ココア・インスタント味噌汁
 昼…レーズンロールパン(立ち食い)
 <行動食> ミニクリームパン・ひとくち大福・パウンドケーキ